

認知症の人に学び ともにあゆむ

クリステイン・
ブライデン講演

下

金武 直美



若年性認知症は、18歳から64歳で発症した認知症をいい、全国で3・78万人、沖縄県では約640人と推計され、診断されていない人を含めるとその3倍になるとも言われている。

働く世代、子育て世代の認知症は、本人はもちろん家族も大きな影響を受ける。仕事の継続困難は経済的困難を招き、福祉を利用するにも若年の場合は窓口が多岐にわたり、行政も事例が少なく慣れていない。

本人が高齢者向け介護保険サービスになじまない場合も多いが、他府県にあるような若年性認知症専門の作業所、デイサービス、グループホームは県内にない。

高齢者の場合とは問題が違う、若年性認知症に特化した会がほしいとの声を受け、今年4月に沖縄県で初

めての「若年性認知症を支える家族の集い」を開催。

認知症の家族会「かけはしの会」(那覇市)と「なごみの会」(名護市)の会員に声をかけ立ちあげた。その後、認知症の人と家族の会沖縄県支部準備会を私が引き受けることとなり、同集いも準備会の傘下に入った。

集いに来る家族は、戸惑いや困りを語り、共に泣き、困難の中でも希望を見だし、情報と仲間を得て強くなっていく。同じ立場の人とつながることが力になるのだ。

しかし地域のつながりが強い沖縄、特にコミュニティが小さい離島では、世間体を気にして家族会に参加できない人も少なからずいる。認知症に対する一般の理解もまだまだ。だからこそ各地の家

家族会の立場から

乏しい県内の「若年性」支援

族会を応援し、認知症関連の諸団体とつながることで、困難な状況にある当事者に手が届くサポート体制を作りたい。

県支部準備会は、今年から琉球大学精神看護学研究室に事務局を置き、下部組織である地区会も、北・中部、宮古、八重山と増えた。9月



私は私になつてらん
私は私になつてらん

私が認知症に取り組むことになったきっかけ。クリステイン氏の講演会でいただいた直筆のサイン
2004年

には県の事業助成を受け、若年性認知症サポート事業を開始している。県内の若年性認知症対策はこれからなのだ。

私の認知症サポート活動の始まりは、2004年神戸でのクリステインさんの講演からであった。46歳で認知症と診断され、日本で初めて実名を出し当事者として思いを語った人。その時に私が受けた衝撃は大きく、認知症をもつ人が思いを語り、どうサポートしてほしいかを自ら語る姿に大きな感銘を受けた。

その後、クリステインさんに勇気をもらった日本の当事者が次々と実名で登場、思いを語り始めた。沖縄の当事者もクリステインさんから勇気をもらい、元気に幸せに暮らせるよう、私も共に歩もうと思う。

(認知症の人と家族の会沖縄県支部準備会代表)

クリステイン・ブライデン氏の県内初講演が11月3日、名護市の名桜大学ホールで開かれる。

第22882号 (日刊)

沖縄 タイムス

2012年10月16日 火曜日
(平成24年) 【旧9月2日・仏滅】

発行所 那覇市おもろまち1丁目3番31号
(郵便番号900-8678) 沖縄タイムス社
私書箱 那覇中央郵便局293号 ©沖縄タイムス社 2012年
電話代表 (098)860-3000
読者センター (098)860-3663

HP <http://www.okinawatimes.co.jp/>